MAL-912E　FXL6　2019年2月1日発行

LIXIL

レガーナポートシグマⅢ 基本・縦連棟 取付説明書

＊MAL912E＊

●このたびは、トステム製品をお買いあげいただきましてまことにありがとうございます。
●施工は必ず専門の工事業者の方が行なってください。
●この取付説明書に示した表示記号の内容は、製品を安全に正しく施工していただき、施主様等の危害や損害を未然に防止するためのものです。
表示記号の内容を良く理解したうえで、本書の内容（指示）にしたがってください。
●この取付説明書では、次のような記号を使用しています。

安全に関する記号	記号の意味
注意	●取付けを誤った場合に、使用者などが中・軽傷を負うおそれのある内容、または物的損害のおそれがある内容を示しています。

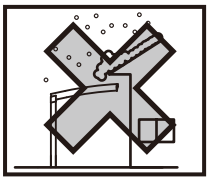
一般情報に関する記号	
ポイント	●取付手順で、特に注意して作業をしていただきたいことを示しています。 ●守っていただかないと組付けができない内容、または製品全体に後々不具合が発生するおそれのある内容を示しています。
※	●取付説明の内容全体（個々の説明枠）にかかる注意事項を示しています。 ●取付説明の内容に制限がある場合の条件を示しています。
補足	●説明の内容で知っておくと便利なことを示しています。

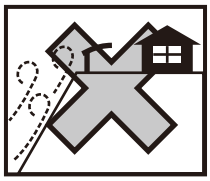
※製品破損、倒壊による人への危害・物的損害が想定されますので、下記事項をお守りください。

＜施工の前に＞

注意

●当製品は簡易型車庫です。物置・遊び場あるいは住居の一部等への転用を目的として、みだりに改造・変更をしないでください。
●積雪（新雪）20cmを超えない地域に設置してください。
●建物の屋根から落雪を直接受けない位置に設置してください。
●強風地域、特に崖上、屋上、風の通り道上等の施工は避けてください。
●施工場所に寸法的に正しく納まるかどうか確認してください。
●給湯器や暖房機等の熱排気が製品内にこもるような場所に施工しないでください。排気による中毒のおそれがあります。
●傾斜地に設置する場合は、低い場所の埋込み深さを確保してください。





ポイント

●給湯器や暖房機等の熱排気が製品に当たらないように施工してください。排気による塗装劣化・剥離（はくり）のおそれがあります。

＜基礎工事について＞

注 意

●基礎部の埋込み深さは製品ごとに決めていますが、現場によって（軟弱な地盤等）基礎部のコンクリートの量（体積）を十分配慮してください。
●寒冷地で凍上するおそれのある地域で使用する場合は、凍上線の下まで基礎を設けてください。強度低下の原因になります。
●柱内の水抜きができるよう、基礎には必ずぐり石を敷き、柱と基礎の付け根に水抜き穴（φ6）をあけてください。
柱内の水が凍結膨張し、柱が破損するおそれがあります。
●モルタルやコンクリート等が製品の表面に付着した場合は、速やかに拭取ってください。シミやムラ等の外観不良の原因になります。

ポイント

●モルタルやコンクリートには、塩分を含む砂（海砂）および塩素系強アルカリのコンクリート用混和剤（凍結防止剤、凝固促進剤、急結剤等）は使用しないでください。使用するとアルミ等の金属が腐食する原因になります。必要な場合は非塩素系や非アルカリ系の混和剤をご使用ください。

＜施工の際に＞

注 意

●「使用上の注意」ラベルを貼っている柱に竪樋を取付けると、表示が見えなくなります。竪樋を取付けない側に表示ラベルを向けてください。
●ボルト、ネジは当社指定品を指定本数使用し、ゆるまないように締付け固定してください。
●アルミ製品が亜鉛、ステンレス以外の金属と接触する場合は、絶縁処理をしてください。
●製品の改造や、指定箇所以外の穴加工はしないでください。
●水濡れのおそれがありますので、指定の箇所にシーリングをしてください。
●シリコーンシーリング材を使用する場合は、ポリカーボネート板のひび割れ等のおそれがありますので、当社指定の脱アルコール型シーリング材を使用してください。

シーリング材メーカー	品名および品番
信越化学工業（株）	シーラント72
モメンティブ・パフォーマンス・マテリアルズ・ジャパン（合）	トスシール380
東レ・ダウコーニング（株）	SE960

ポイント

●施工工事にあたっては、安全に施工を行なってください。
・作業服および保護具（保護帽、安全帯、眼、手、足の保護具）を正しく使用してください。
・作業場所の整理整頓を行なうとともに、安全確保を行なってください。
特に高所作業での安全確保、倒壊防止、照明による照度の確保など。
・器具、工具、保護具などの機能を確認し、使用してください。
・作業は、相互の作業と各作業工程を考慮して進めてください。免許、技能講習、特別教育が必要な作業は、有資格者が行なってください。
・作業者が相互に安全確認を行なってください。健康状態を十分に確認し、健康管理を実施してください。
・万が一、事故が発生した際には、直ちに手当を行ない、救助を第一に心がけてください。
●製品についた汚れは取除き、誤ってキズをつけた場合は、補修塗料で補修してください。

＜施工の後に＞

注 意

□ボルト、ネジを増し締めしてください。

ポイント

□取扱説明書は施主様にお渡しください。

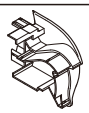
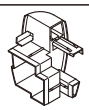
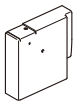
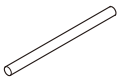
INDEX

1　梱包明細表…… 4
2　基本寸法と各部名称…… 8
　1．各部名称…… 8
　2．基本寸法…… 10
3　基本の施工方法…… 14
　1．基礎の施工…… 14
　2．柱と梁の取付け…… 15
　3．前枠・母屋・後枠の取付け…… 16
　4．側枠・アーチの取付け…… 17
　5．屋根パネルの取付け…… 19
　6．屋根材ホルダーの取付け…… 20
　7．竪樋の取付け…… 21
4　縦連棟の施工方法…… 22
　1．基礎の施工…… 22
　2．本体の連結…… 23

1　梱包明細表

※施工の前に梱包明細表で必要な部材、部品が揃っているか確認してください。

【1】部品セット

名　称	略　図	員　数					
		樋あり			樋なし		
		50型	57型	14型	50型	57型	14型
前枠（樋あり）コーナーキャップR		1	1	—	—	—	—
前枠（樋あり）コーナーキャップL		1	1	—	—	—	—
前枠（樋なし）コーナーキャップR		—	—	—	1	1	—
前枠（樋なし）コーナーキャップL		—	—	—	1	1	—
後枠コーナーキャップR		1	1	—	1	1	—
後枠コーナーキャップL		1	1	—	1	1	—
前枠ブラケット		2	2	1	2	2	1
ブラケットカバーR		2	2	1	2	2	1
ブラケットカバーL		2	2	1	2	2	1
アンカー棒		2	2	1	2	2	1
穴隠しシール		21（26）	21（26）	10（13）	21（26）	21（26）	10（13）
雨樋アタッチメント		1	1	1	—	—	—
雨樋穴ふさぎキャップ		1	1	1	—	—	—

※（　）内は間口30型です。

【1】部品セット（つづき）

名　称	略　図	員　数					
		樋あり			樋なし		
		50型	57型	14型	50型	57型	14型
アタッチメントパッキン		2	2	2	–	–	–
ドレンエルボ　φ40用		1	1	1	–	–	–
92° エルボ　φ40用		2	2	2	–	–	–
でんでん		3	3	3	–	–	–
雨樋バンド		2	2	2	–	–	–
雨樋取付け金具（柱側）		1	1	1	–	–	–
雨樋取付け金具（前枠側）		1	1	1	–	–	–
アーチカバーキャップ		–	–	–	7	8	2
屋根材ホルダースペーサー		16	18	4	16	18	4
接着剤		1	1	1	–	–	–
パネル緩衝材		24（32）	24（32）	8	24（32）	24（32）	8
【1-1】M8×25六角ボルト（SW+PW）		14	14	7	14	14	7
【1-2】φ5×55サラタッピンネジ		2	2	1	2	2	1
【1-3】φ5×14トラスネジ		4	4	2	4	4	2
【1-4】φ4×10ワッシャーヘッドネジ		122（166）	134（183）	37（50）	118（162）	130（179）	32（46）
【1-5】φ4×13ナベドリルネジ		49（58）	54（64）	16（18）	43（52）	49（59）	10（13）
【1-6】φ4×13ナベドリルネジ（色付き）		–	–	–	7	8	2
【1-7】M8用後付け固定ボルト		1	1	1	–	–	–
【1-8】φ4×12トラスネジ		15	15	8	13	13	6
【1-9】M8平座金		1	1	1	–	–	–
【1-10】M8バネ座金		1	1	1	–	–	–
【1-11】M8袋ナット		1	1	1	–	–	–
【1-12】φ5×13ナベドリルネジ		17	19	4	17	19	4
【1-13】φ4×14トラスタッピンネジ3種		4	4	4	–	–	–
取付説明書	–	1	1	–	1	1	–

※（　）内は間口30型です。

■梱包明細表（つづき）

【2】主柱セット

名　称	略　図	員　数			
		H18 2本入	H18 1本入	H23 2本入	H23 1本入
標準柱 H18		2	1	—	—
ロング柱 H23		—	—	2	1
取扱説明書	—	1	—	1	—

【3】樋セット

名　称	略　図	員　数	
		L3100	L1000
竪樋　L=3100　φ40		1	—
竪樋　L=1000　φ40		—	1
樋（アルミ）φ40		1	–

【4】ブラケットセット

名　称	略　図	員　数	
		2本入	1本入
ブラケット		2	1

【5】幅セット

名　称	略　図	員　数	
		50型	57型
側枠R		1	1
側枠L		1	1
側枠カバーR		1	1
側枠カバーL		1	1

【5】幅セット（つづき）

名　称	略　図	員　数	
		50型	57型
アーチ		6	7
アーチカバー		6	7
屋根材ホルダー		7	8

【6】屋根材セット

名　称	略　図	員　数		
		1枚入	3枚入	4枚入
屋根パネル		1	3	4

【7】梁セット

名　称	略　図	員　数	
		2本入	1本入
梁		2	1

【8】長さセット

名　称	略　図	員　数					
		樋あり			樋なし		
		50型	57型	14型	50型	57型	14型
前枠（樋あり）		1	1	1	–	–	–
前枠（樋なし）		–	–	–	1	1	1
後枠		1	1	1	1	1	1
母屋		3（4）	3（4）	3（4）	3（4）	3（4）	3（4）
樋（アルミ）　φ40		1	1	–	–	–	–
竪樋　φ40		1	1	–	–	–	–

※（　）内は間口30型です。

【9】連棟部材セット

名　称	略　図	員　数			
		樋あり		樋なし	
		24～27用	30用	24～27用	30用
前枠スリーブ（樋あり）		1	1	–	–
前枠スリーブ（樋なし）		–	–	1	1
後枠スリーブ		1	1	1	1
母屋スリーブ		3	4	3	4
【9-1】φ4×13 ナベドリルネジ		46	54	46	54

【10】連棟用幅セット

名　称	略　図	員　数		
		50型	57型	14型
アーチ		7	8	2
アーチカバー		7	8	2
屋根材ホルダー		7	8	2

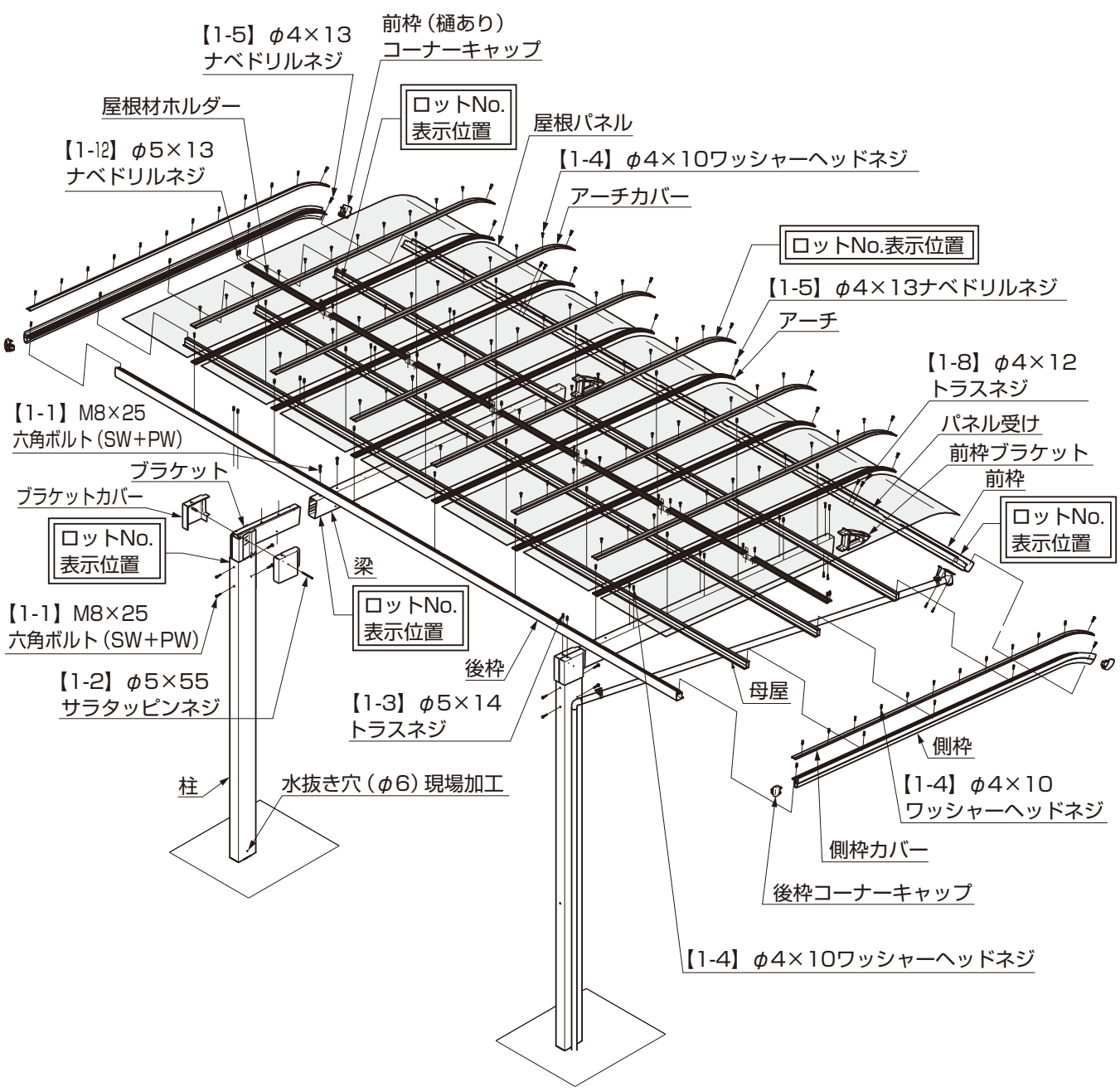
【11】母屋補強材セット　オプション

名　称	略　図	員　数
母屋補強材（L＝1500）		2
【11-1】φ4×13ナベドリルネジ		9
【11-2】φ5×13ナベドリルネジ		5
取付説明書	ー	1

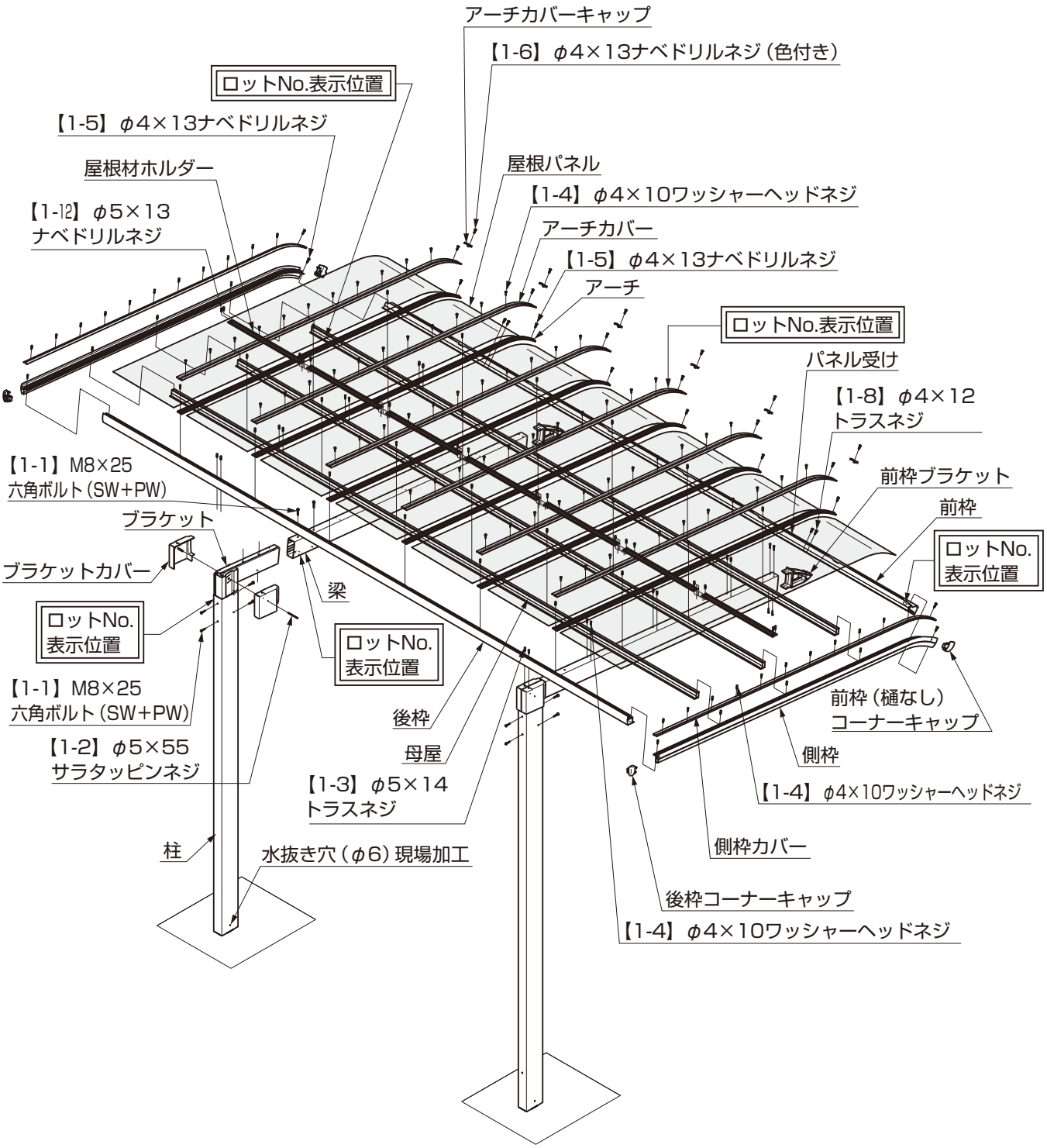
2　基本寸法と各部名称

1. 各部名称

1-1　樋あり



1-2 樋なし


アーチカバーキャップ
【1-6】φ4×13ナベドリルネジ（色付き）
ロットNo.表示位置
【1-5】φ4×13ナベドリルネジ
屋根材ホルダー
屋根パネル
【1-4】φ4×10ワッシャーヘッドネジ
【1-12】φ5×13
ナベドリルネジ
アーチカバー
【1-5】φ4×13ナベドリルネジ
アーチ
ロットNo.表示位置
パネル受け
【1-8】φ4×12
トラスネジ
【1-1】M8×25
六角ボルト（SW+PW）
前枠ブラケット
前枠
ブラケット
ロットNo.
表示位置
ブラケットカバー
梁
ロットNo.
表示位置
ロットNo.
表示位置
【1-1】M8×25
六角ボルト（SW+PW）
前枠（樋なし）
コーナーキャップ
後枠
【1-2】φ5×55
サラタッピンネジ
母屋
側枠
【1-3】φ5×14
トラスネジ
【1-4】φ4×10ワッシャーヘッドネジ
柱
水抜き穴（φ6）現場加工
側枠カバー
後枠コーナーキャップ
【1-4】φ4×10ワッシャーヘッドネジ

2. 基本寸法

※図は標準柱仕様を示します。(　) はロング柱H23仕様を示します。
※構造計算書を添付して建築確認申請をおこなっている場合、構造計算書の基礎寸法で施工してください。

2-1 間口

(1) 樋あり

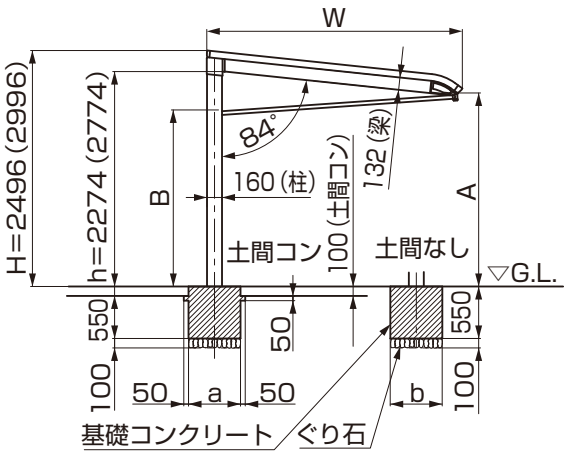


図2-1　24～27サイズ

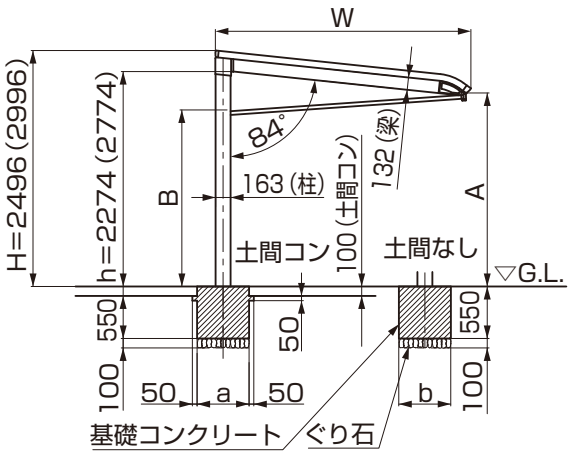


図2-2　30サイズ

表2-1　　単位mm

間口	W	A	B	a	b
24	2397	2079 (2579)	1868 (2368)	400	700
25	2550	2063 (2563)	1842 (2342)		
27	2702	2047 (2547)	1815 (2315)		
30	3025	2013 (2513)	1759 (2259)	500	800

(2) 樋なし

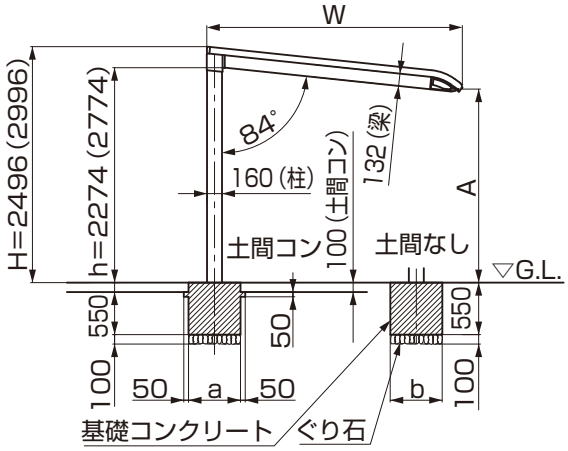


図2-3　24～27サイズ

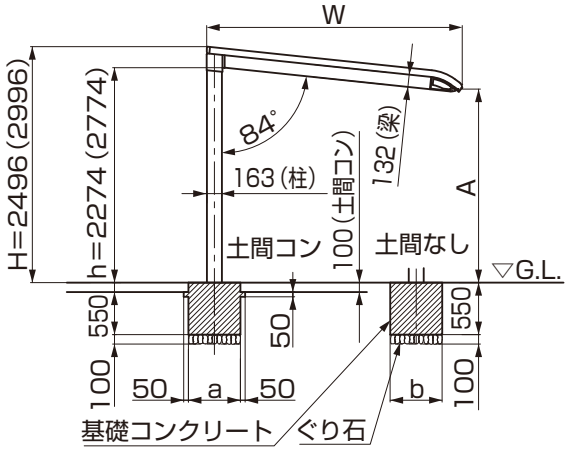


図2-4　30サイズ

表2-2　　単位mm

間口	W	A	a	b
24	2397	2051 (2551)	400	700
25	2550	2036 (2536)		
27	2702	2020 (2520)		
30	3025	1986 (2486)	500	800

2-2 奥行き50・57タイプ

※柱芯々寸法は±100mm以内にしてください。
※〈　〉は奥行き57型を示します。

（1）樋あり

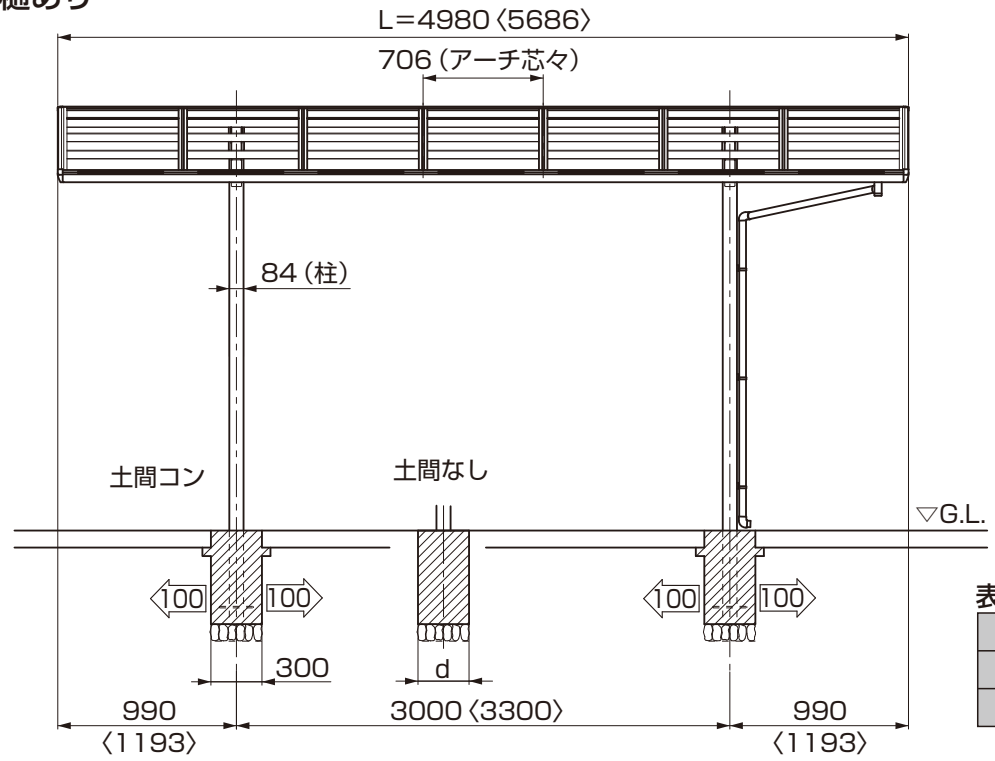


表2-3　単位mm

間口	d
24～27	600
30	700

（2）樋なし

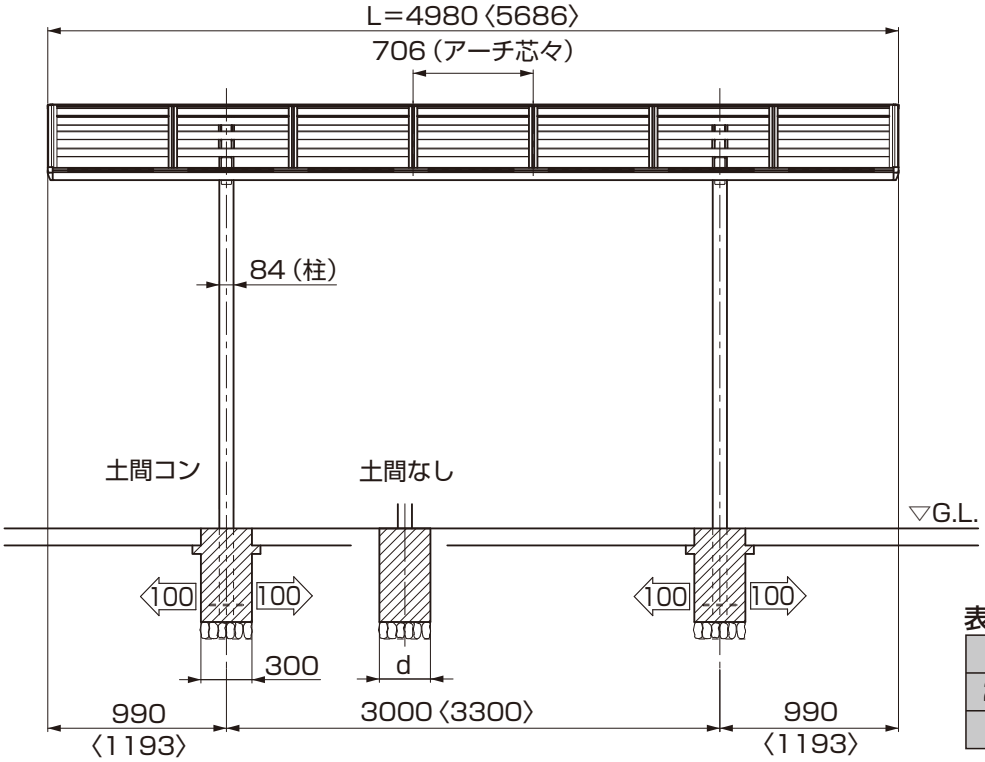


表2-4　単位mm

間口	d
24～27	600
30	700

2-3 奥行き14延長タイプ

※柱芯々寸法は±100mm以内にしてください。
※〈　〉は奥行き57型を示します。

(1) 樋あり

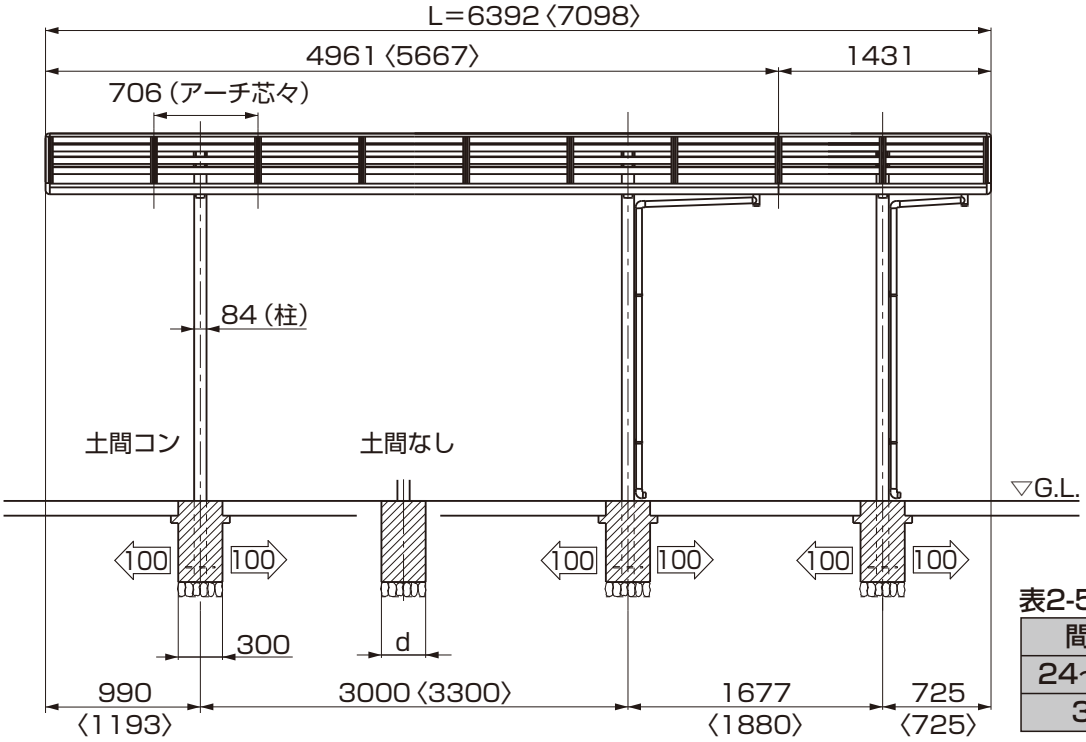


表2-5　単位mm

間口	d
24~27	600
30	700

(2) 樋なし

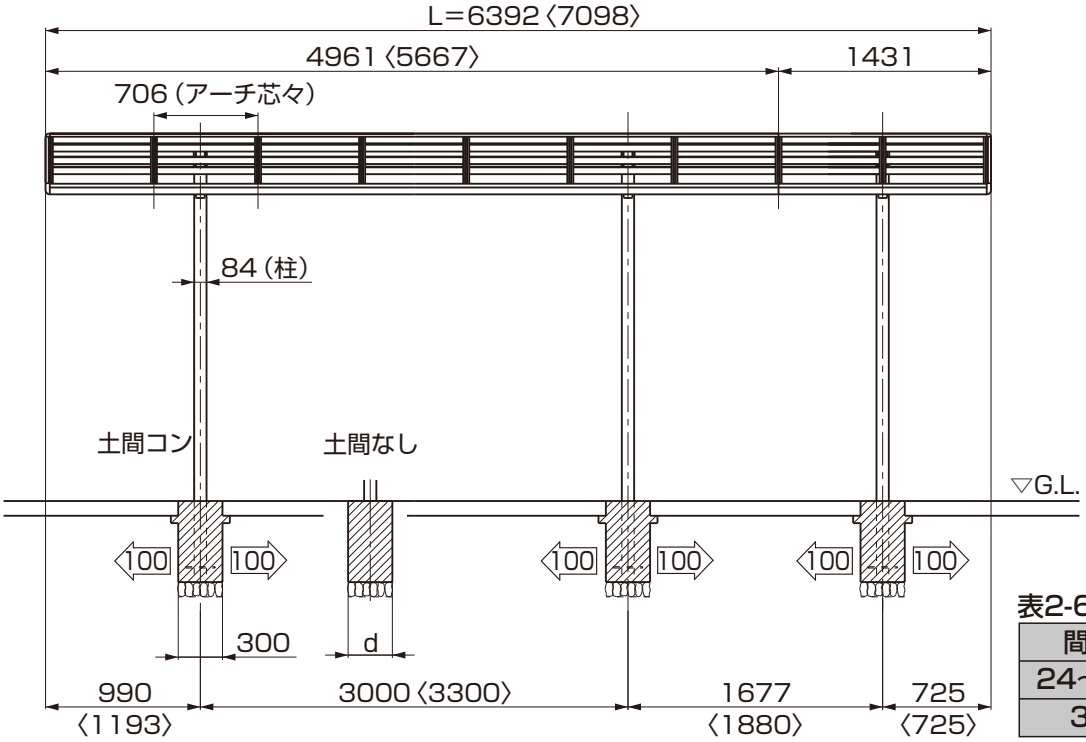


表2-6　単位mm

間口	d
24~27	600
30	700

2-4 奥行き縦連棟タイプ

※柱芯々寸法は±100mm以内にしてください。
※〈　〉は奥行き57型を示します。

（1）樋あり

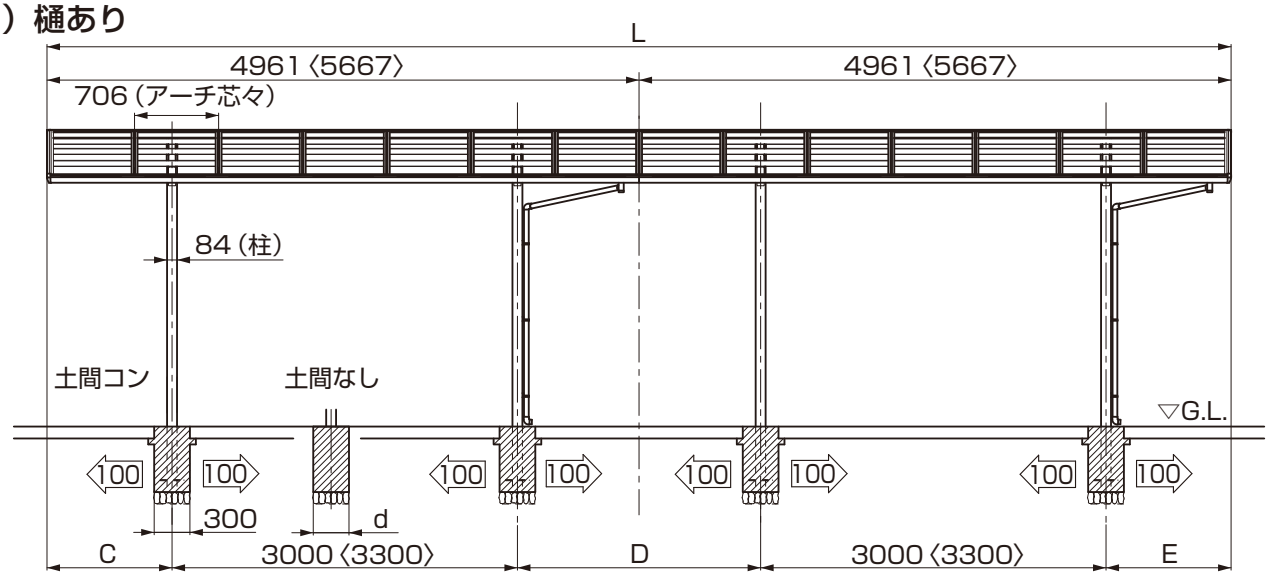


表2-7　単位mm

奥行き	L	C	D	E
50−50	9922	990	1942	990
50−57	10628	990	2145	1193
57−57	11334	1193	2348	1193

表2-8　単位mm

間口	d
24〜27	600
30	700

（2）樋なし

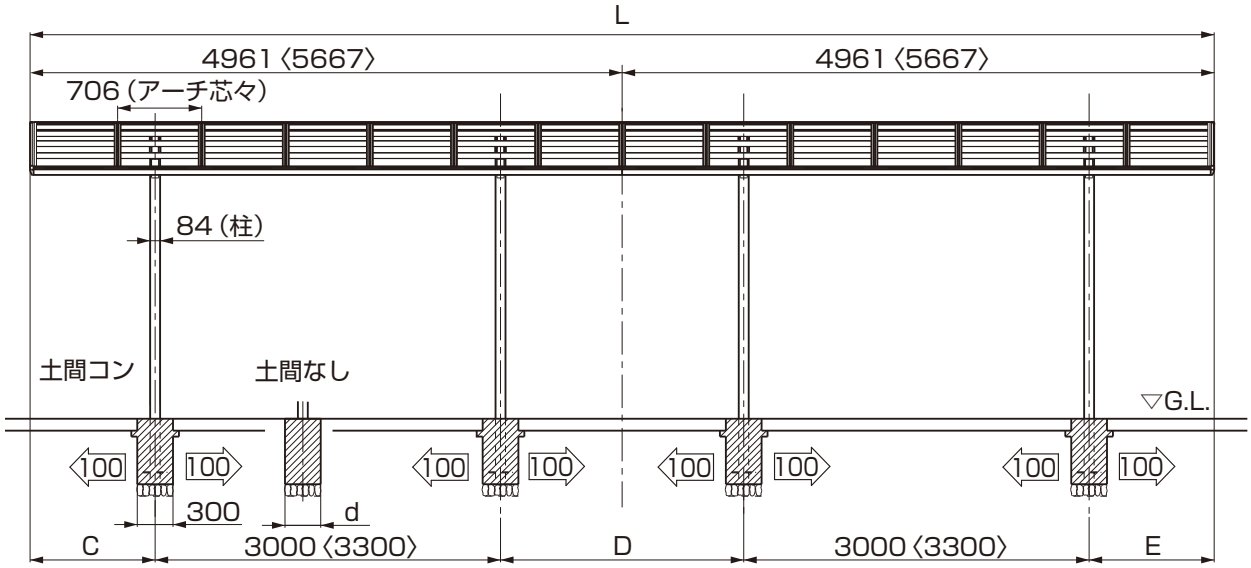


表2-9　単位mm

奥行き	L	C	D	E
50−50	9922	990	1942	990
50−57	10628	990	2145	1193
57−57	11334	1193	2348	1193

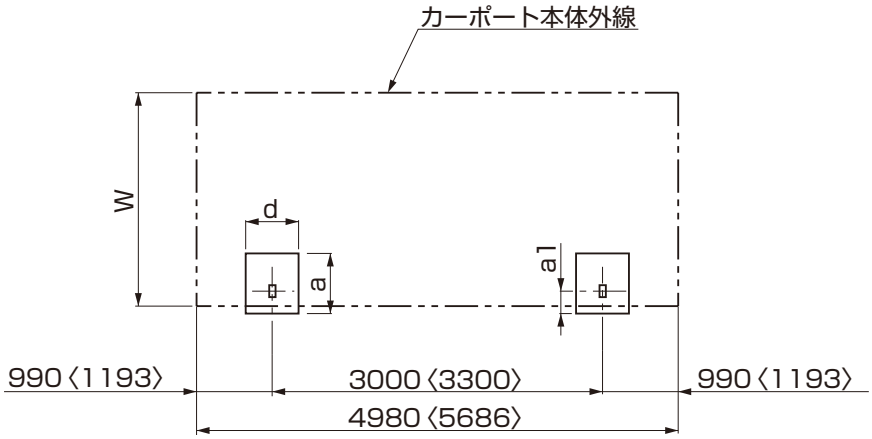
表2-10　単位mm

間口	d
24〜27	600
30	700

3　基本の施工方法

1. 基礎の施工

1-1　基礎位置の墨出し ※〈　〉は奥行き57型を示します。



①柱の埋込み位置を出して、基礎穴を掘ってください。

注 意

●柱の移動は当社指定範囲内にしてください。

ポイント

●構造計算書を添付して建築確認申請をおこなっている場合、構造計算書の基礎寸法で施工してください。

補 足

●柱の移動は±100mm以内ですが柱芯々寸法が±100mm以内になるようにしてください。

表1-1　　単位mm

間口	W（屋根寸法）	土間なし			土間コンクリート		
		a	a1	d	a	a1	d
24	2397	700	300	600	400	200	300
25	2550						
27	2702						
30	3025	800		700	500	250	

1-2　基礎寸法

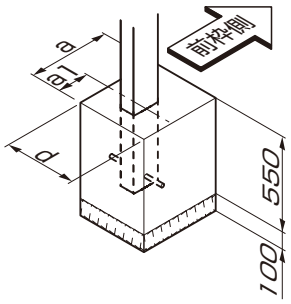


図1-1　土間なし仕様の場合

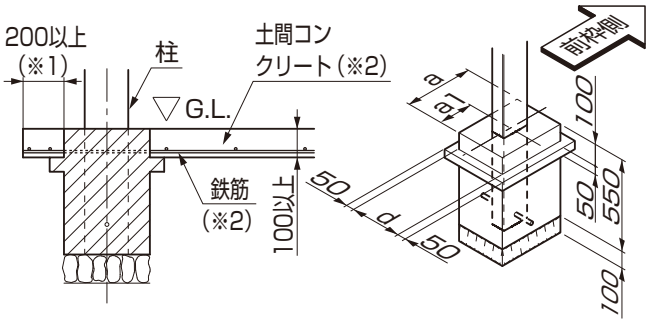


図1-2　土間コンクリート仕様の場合

表1-2　　単位mm

間口	土間なし			土間コンクリート		
	a	a1	d	a	a1	d
24～27	700	300	600	400	200	300
30	800		700	500	250	

ポイント

●基礎上面と土間コンクリートの縁端距離は200mm以上になるようにしてください。（※1）
●土間コンクリートには、鉄筋を敷設してください。（※2）
●構造計算書を添付して建築確認申請をおこなっている場合、構造計算書の基礎寸法で施工してください。

2. 柱と梁の取付け

①前枠ブラケットを梁に【1-8】で取付けてください。（図2-1参照）

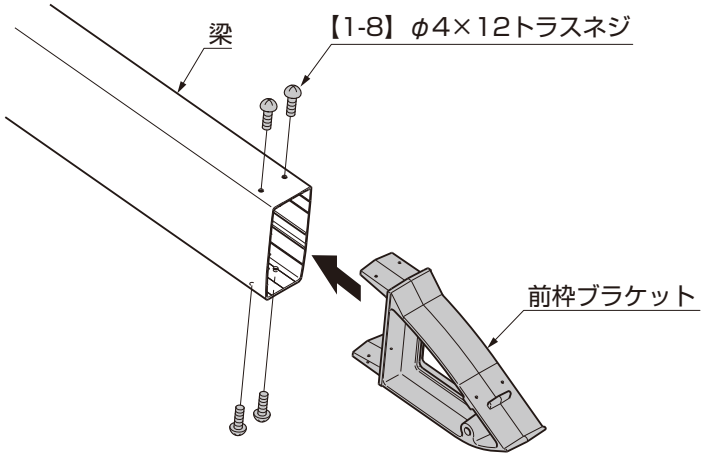


図2-1

②柱にアンカー棒を差込んでください。
③柱にブラケットを【1-1】で取付けてください。
④梁をブラケットに【1-1】で取付けてください。
⑤ブラケットカバーをブラケットに【1-2】で取付けてください。

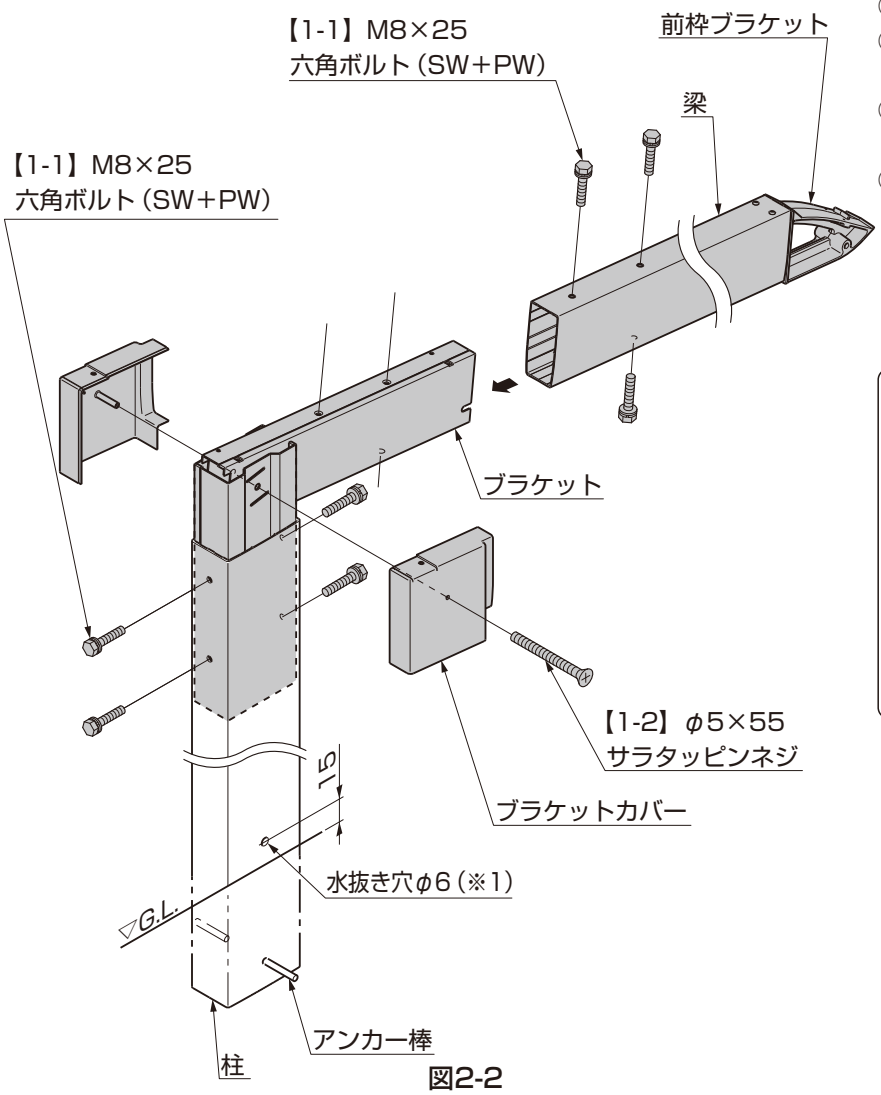


図2-2

注 意

- 「使用上の注意」ラベルを貼っている柱に竪樋を取付けると、表示が見えなくなります。竪樋を取付けない側に表示ラベルを向けてください。
- 柱のG.L.付近（地上側）にφ6水抜き穴をあけてください。柱内の水が凍結膨張し、柱が破損するおそれがあります。（※1）

3. 前枠・母屋・後枠の取付け

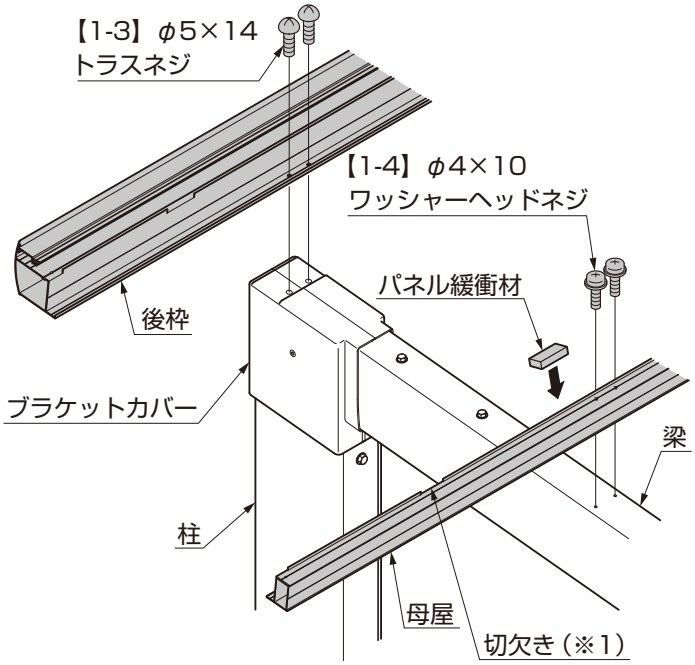


図3-1

①後枠をブラケットカバーに【1-3】で取付けてください。（図3-1参照）

ポイント

●パネル受けを後枠の切欠きと切欠きの間に均等になるように移動させてください。

②パネル緩衝材を母屋の切欠きと切欠き（※1）の間に貼付けてください。
③後枠側にフィン部を向けて、母屋を梁に【1-4】で取付けてください。（図3-2参照）

ポイント

●耐風圧仕様の場合は梁と母屋の交差する場所に【11-2】を1つ追加してください。
詳細は「4-2 耐風圧オプションの取付け オプション」を参照してください。
●母屋補強材の取付け手順は「母屋補強材セット」同梱の取付説明書を参照してください。

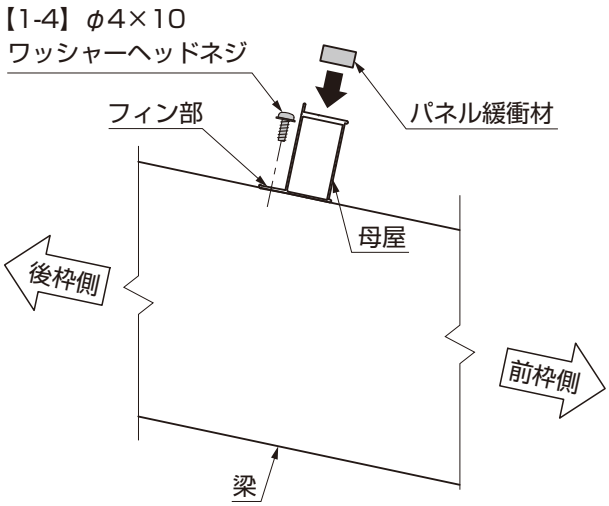


図3-2

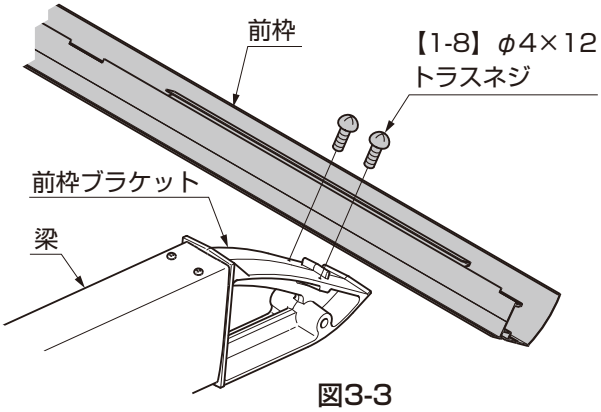


図3-3

④前枠を前枠ブラケットに【1-8】で取付けてください。（図3-3参照）

ポイント

●柱を移動した場合は、前枠・後枠・母屋を梁に合わせて後枠はφ5.5、前枠・母屋はφ4.5の穴加工を行なってください。
●既存の加工穴には穴隠しシールを貼ってください。

4. 側枠・アーチの取付け

4-1 側枠・アーチの取付け

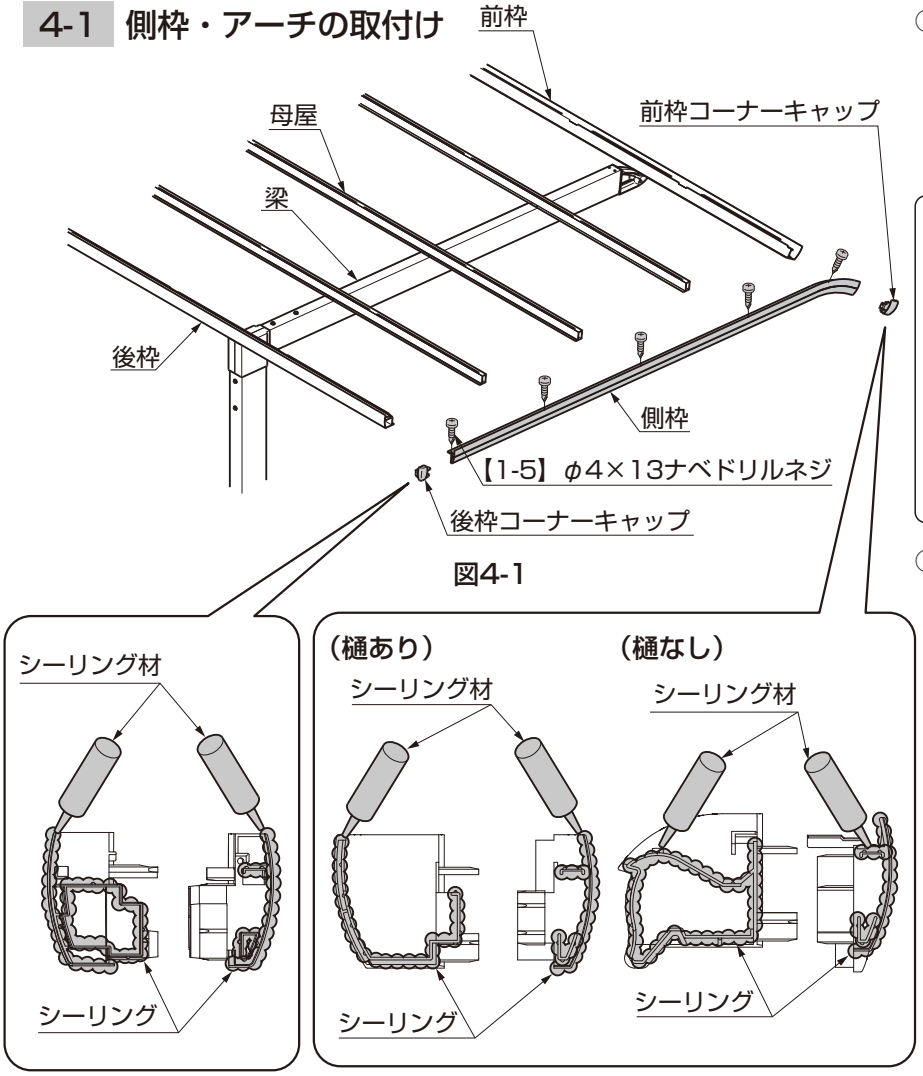


図4-1

①前枠コーナーキャップおよび後枠コーナーキャップにシーリング材を充てんして、側枠に取付けてください。（図4-1）

ポイント

●側枠には左右があります。曲げがある方を前枠側にしてください。
●耐風圧仕様の場合は、母屋に母屋補強材を挿入後、側枠を取付けてください。
詳細は「4-2 対風圧オプションの取付け オプション」を参照してください。

②前枠・後枠・母屋に側枠の穴を合わせて、【1-5】で取付けてください。（図4-1参照）

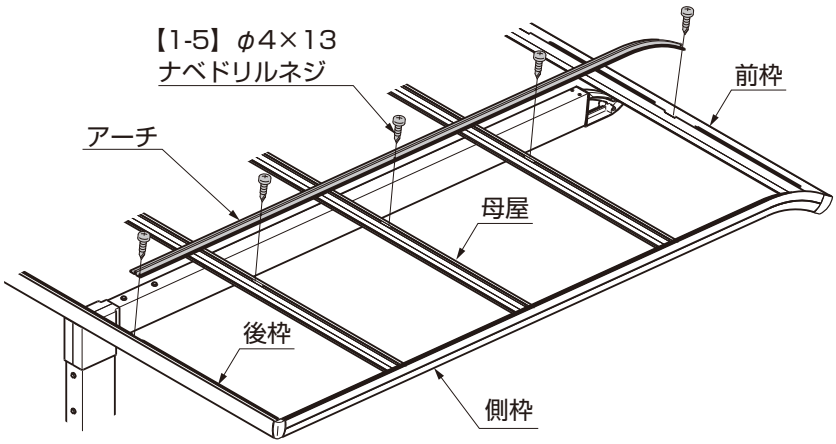


図4-2

③アーチの前後を確認して、前枠・後枠・母屋にアーチの穴を合わせて、【1-5】で取付けてください。（図4-2、図4-3参照）
④屋根枠まわりの対角・水平および柱の垂直を出してください。

補足

●前枠・後枠、母屋には加工穴はあいていません。

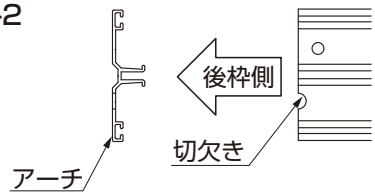
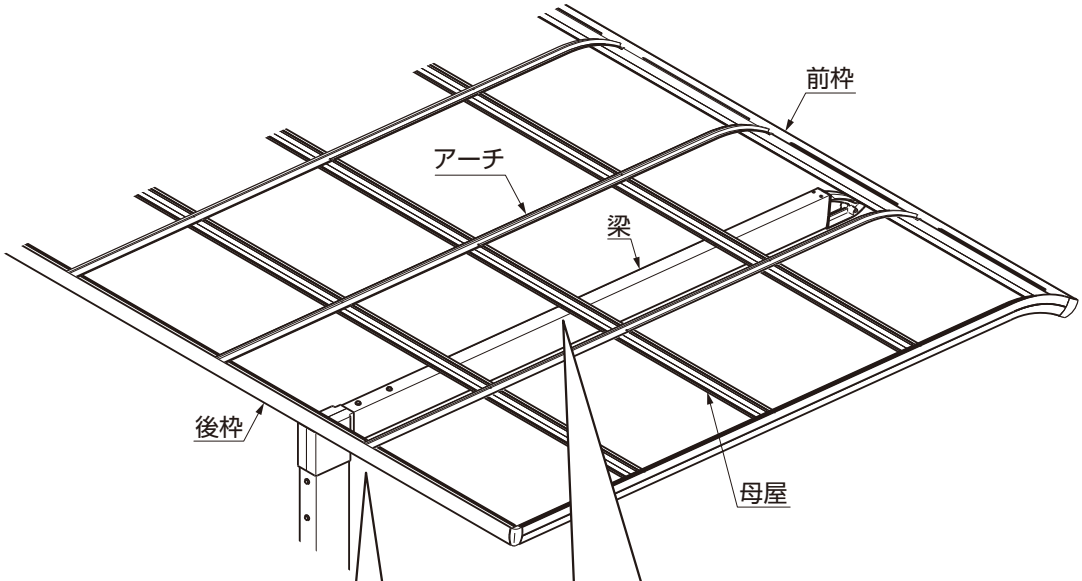


図4-3

4-2 耐風圧オプションの取付け オプション



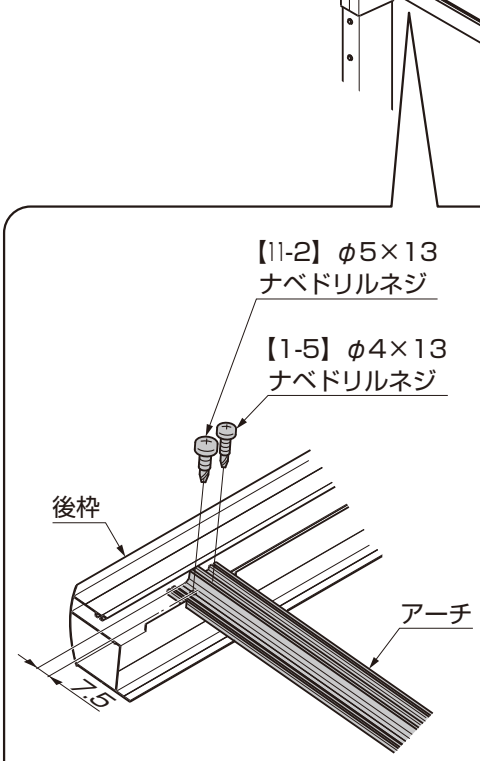


図4-4　後枠とアーチの取付け

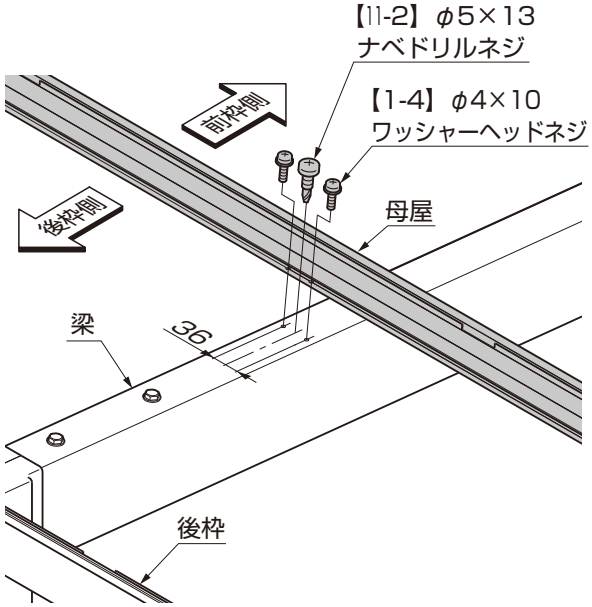


図4-5　梁と母屋の取付け

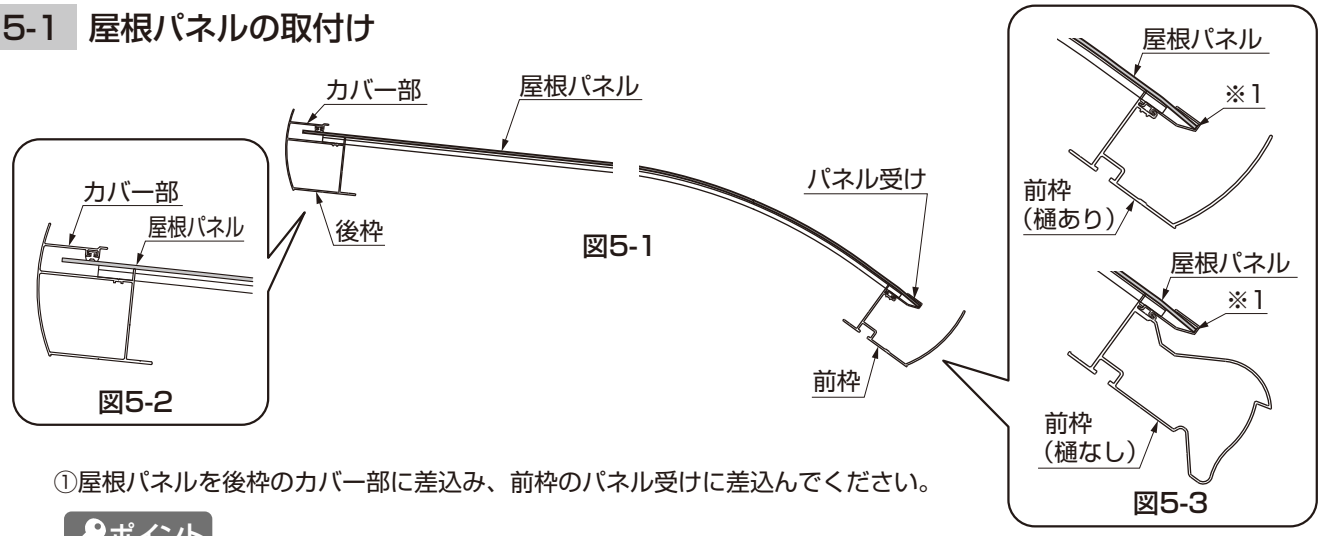
①後枠とアーチを固定している【1-5】の隣に、【11-2】を取付けてください。（図4-4参照）
②母屋と梁、前枠と前枠ブラケットを固定している【1-4】の中間に【11-2】を取付けてください。（図4-5参照）

ポイント

●間口30型の耐風圧仕様の場合、柱側母屋にφ4の下穴をあけてから【11-2】を取付けてください。

5. 屋根パネルの取付け

5-1 屋根パネルの取付け

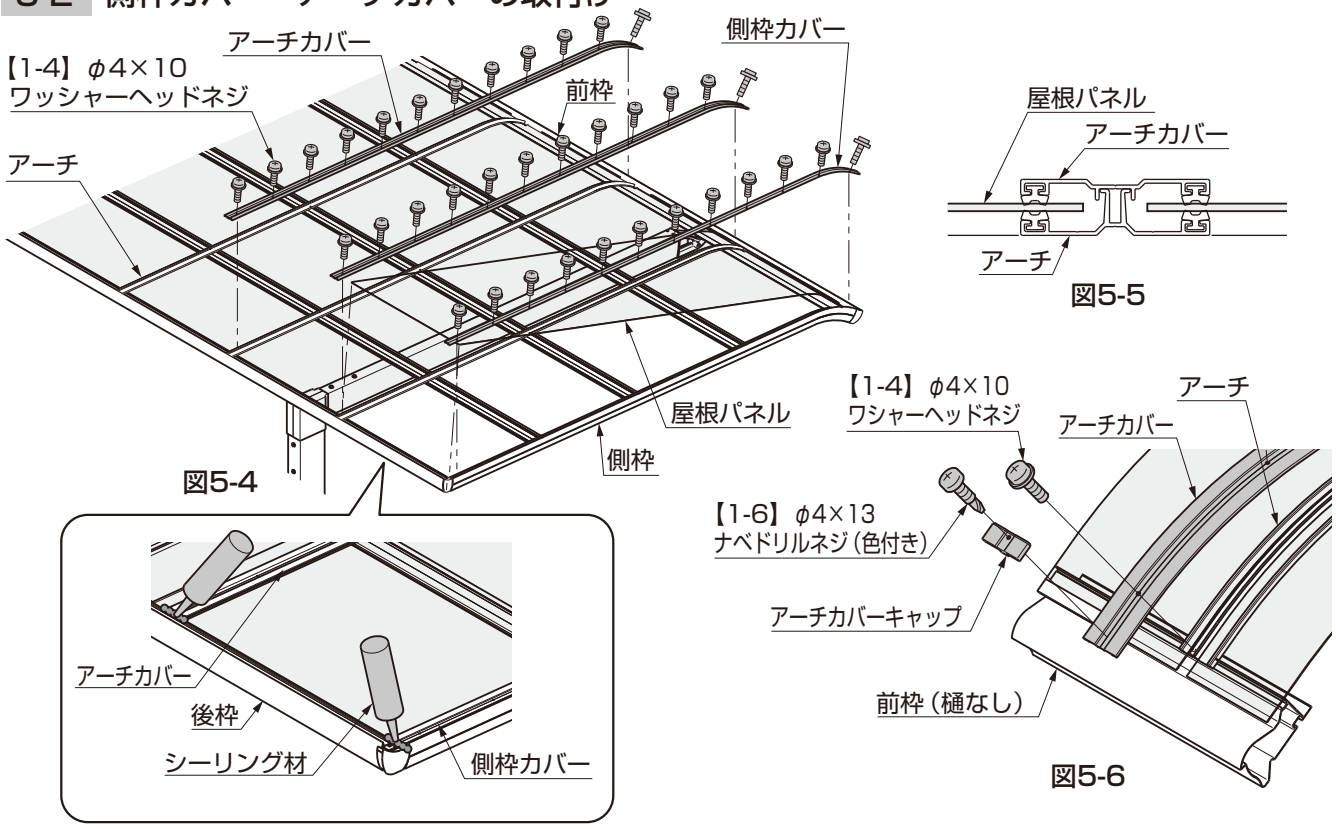


①屋根パネルを後枠のカバー部に差込み、前枠のパネル受けに差込んでください。

ポイント

- ●屋根パネルは前枠側に突き当ててください。（※1）
- ●アーチ部ののみ込み寸法は、左右均等にしてください。
- ●屋根パネルは必ず裏表を確認し、保護シートをはがしてから取付けてください。

5-2 側枠カバー・アーチカバーの取付け



①アーチカバー・側枠カバーを後枠に突き当てて、後枠側からアーチに【1-4】で取付けてください。（図5-4参照）

ポイント

- ●アーチとアーチカバーがかみ合っていることを確認してください。（図5-5参照）
- ●前枠（樋なし）の場合はアーチカバー端部にアーチカバーキャップを【1-6】で取付けてください。（図5-6参照）

②後枠とアーチカバーの間と後枠と側枠カバーの間にシーリング材を充てんしてください。（図5-4参照）

6. 屋根材ホルダーの取付け

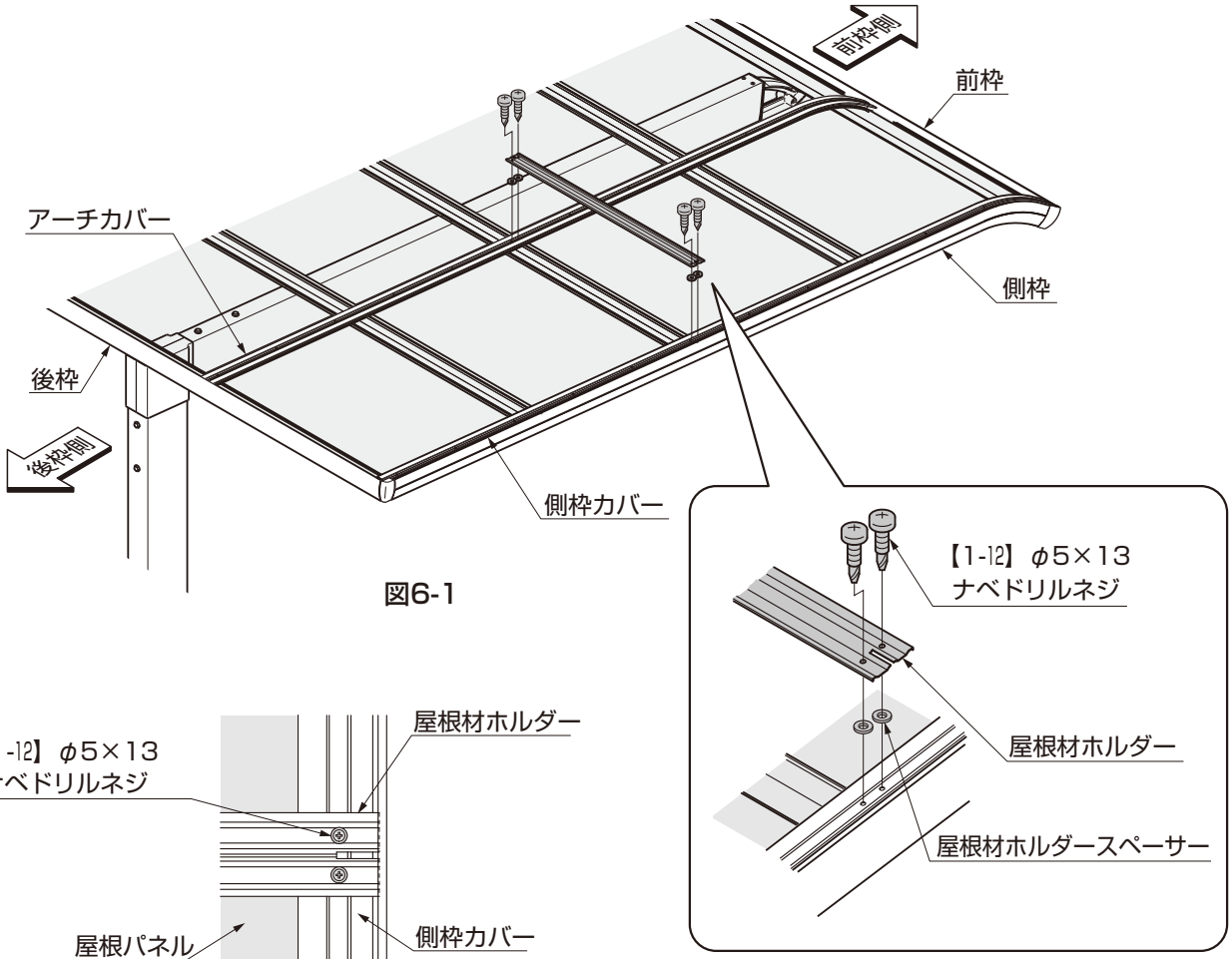


図6-1

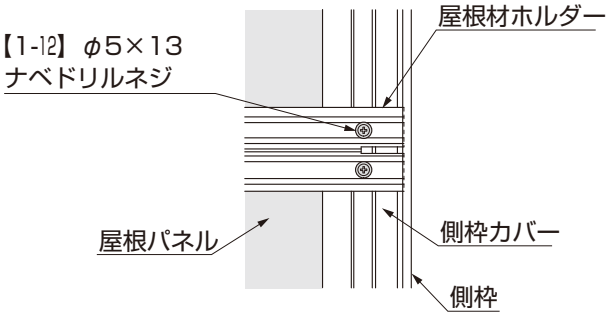


図6-2

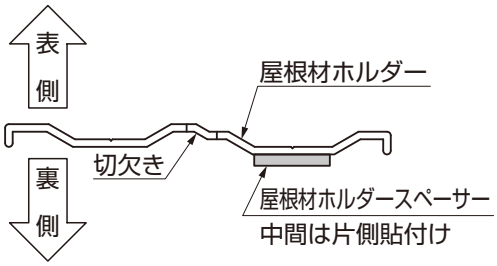


図6-3　屋根材ホルダー断面図

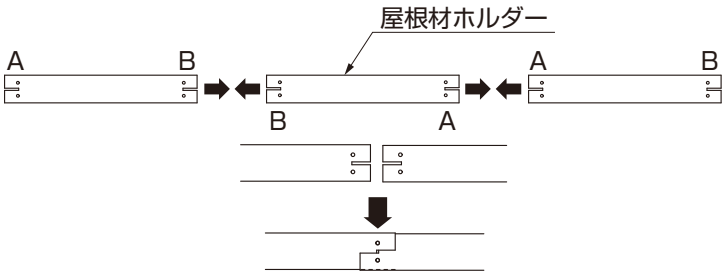


図6-4

①屋根材ホルダーを後枠側から数えて2本目の母屋の真上の位置に【1-12】で取付けてください。(図6-1参照)
②サポートと併用する場合は、後枠から数えて1本目の母屋の真上の位置に取付けてください。

ポイント

- ●側枠カバー側のネジだけを固定して、反対側は次の屋根パネルとアーチカバーを取付けた後で固定してください。(図6-2参照)
- ●2本目以後の取付けは、1本目の屋根材ホルダーと反対向きにして、切り込み部分をかみ合わせるように取付けてください。(図6-4参照)
- ●取付け前に屋根材ホルダー下面に屋根材ホルダースペーサーを貼付けてください。
  (端部：図6-1、中間：図6-3参照)

7. 竪樋の取付け

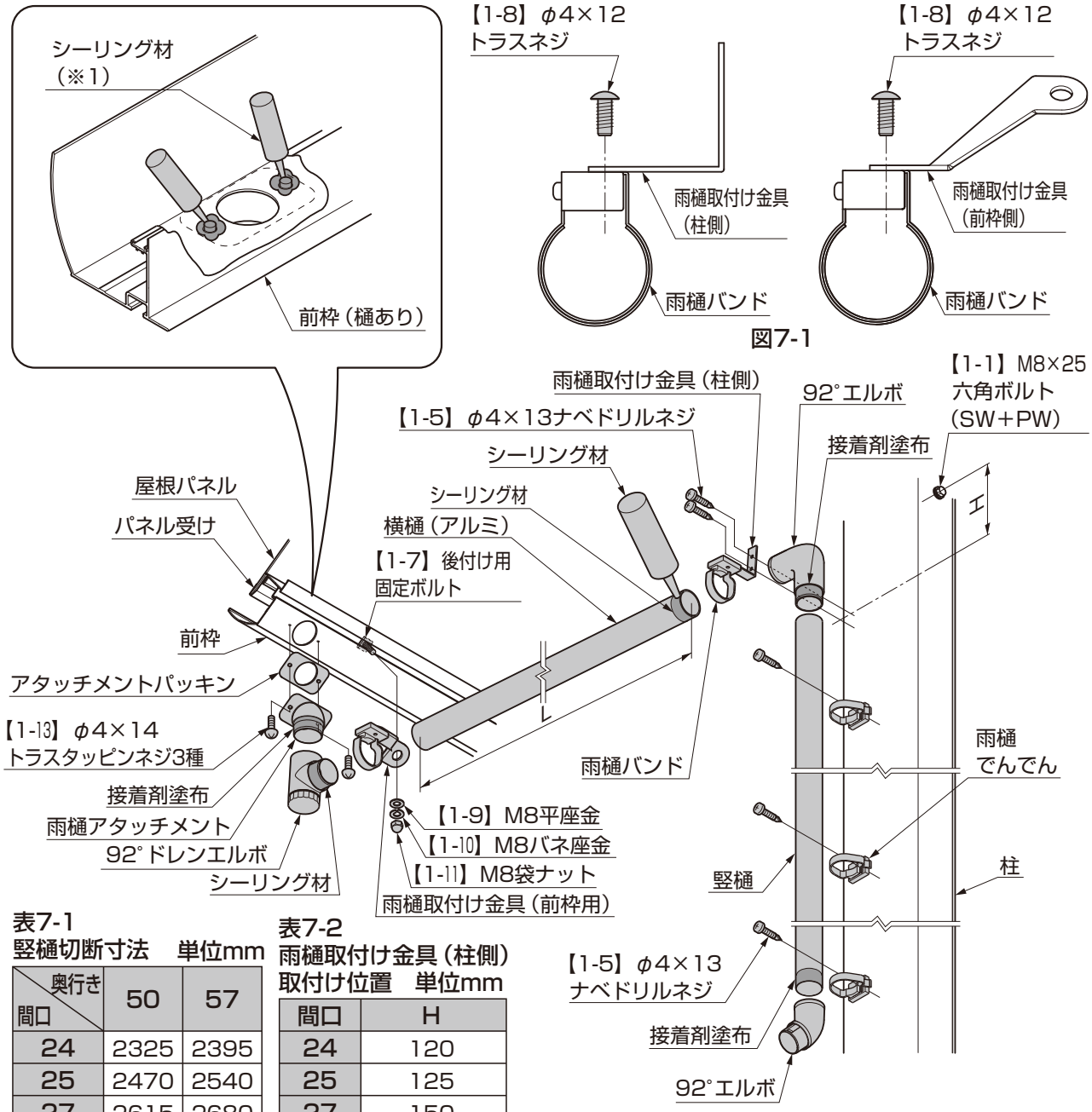


表7-1
竪樋切断寸法　単位mm

間口＼奥行き	50	57
24	2325	2395
25	2470	2540
27	2615	2680
30	2930	2985

表7-2
雨樋取付け金具（柱側）
取付け位置　単位mm

間口	H
24	120
25	125
27	150
30	210

①雨樋バンドと雨樋取付け金具（柱側）・（前枠側）をそれぞれ【1-8】で固定してください。（図7-1参照）
②竪樋を切断してください。（表7-1参照）
③前枠両端の片方の水抜き穴にアタッチメントパッキン、雨樋アタッチメント、ドレンエルボを接着剤と【1-13】で取付けてください。
④横樋（アルミ）に雨樋バンドを通し、92°エルボ、竪樋、でんでんとともに接着剤と【1-5】で取付けてください。
⑤雨樋取付け金具（前枠側）を前枠に【1-7】、【1-9】、【1-10】、【1-11】で取付けてください。
⑥雨樋取付け金具（柱側）を柱に【1-5】で取付けてください。（表7-2参照）
⑦ネジ部にシーリング材を充てんしてください。（※1）

ポイント

●雨樋取付金具（柱側）を取付けるネジは【1-1】から120mmより下に取付けてください。
●横樋はアルミのためエルボ取付け時にはシーリング材を使用してください。

4　縦連棟の施工方法

1. 基礎の施工

1-1　奥行き14延長タイプ ※〈　〉は奥行き57型を示します。

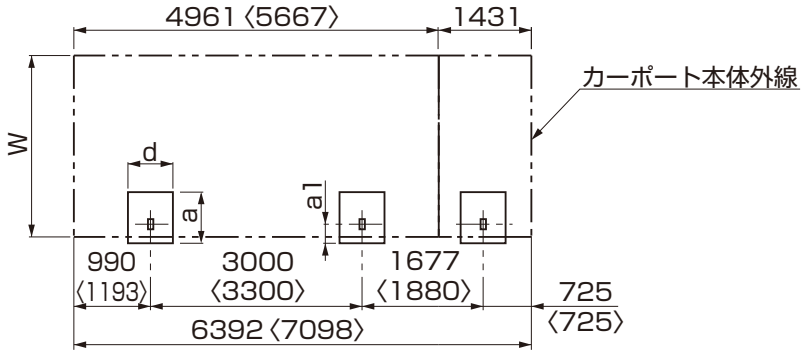


表1-1　　単位mm

間口	W（屋根寸法）	土間なし			土間コンクリート		
		a	a1	d	a	a1	d
24	2397	700	300	600	400	200	300
25	2550						
27	2702						
30	3025	800		700	500	250	

①柱の埋込み位置を出して、基礎穴を掘ってください。

注 意

●柱の移動は当社指定範囲内にしてください。

ポイント

●構造計算書を添付して建築確認申請をおこなっている場合、構造計算書の基礎寸法で施工してください。

補 足

●基礎構造については「2 基本寸法と各部名称　2.基本寸法」を参照してください。
●柱の移動は±100mm以内ですが柱芯々寸法が±100mm以内になるようにしてください。

1-2　奥行き縦連棟タイプ ※〈　〉奥行きは57型を示します。

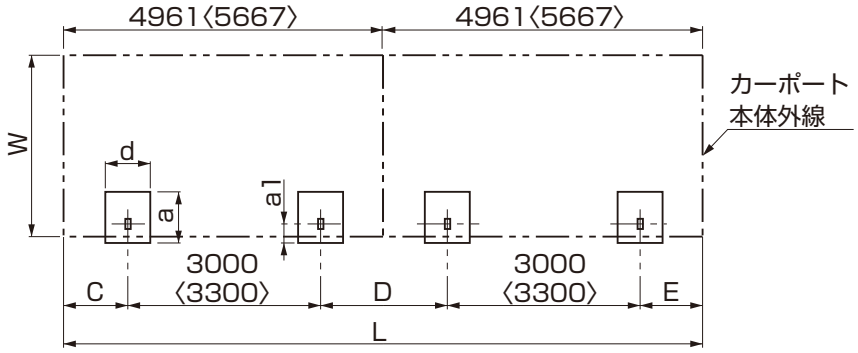


表1-2　　単位mm

間口	W（屋根寸法）	土間なし			土間コンクリート		
		a	a1	d	a	a1	d
24	2397	700	300	600	400	200	300
25	2550						
27	2702						
30	3025	800		700	500	250	

表1-3　　単位mm

奥行き	L	C	D	E
50-50	9922	990	1942	990
50-57	10628		2145	1193
57-57	11334	1193	2348	

①柱の埋込み位置を出して、基礎穴を掘ってください。

注 意

●柱の移動は当社指定範囲内にしてください。

ポイント

●構造計算書を添付して建築確認申請をおこなっている場合、構造計算書の基礎寸法で施工してください。

補 足

●基礎構造については「2 基本寸法と各部名称　2.基本寸法」を参照してください。
●柱の移動は±100mm以内ですが柱芯々寸法が±100mm以内になるようにしてください。

2. 本体の連結

2-1 連棟部の加工

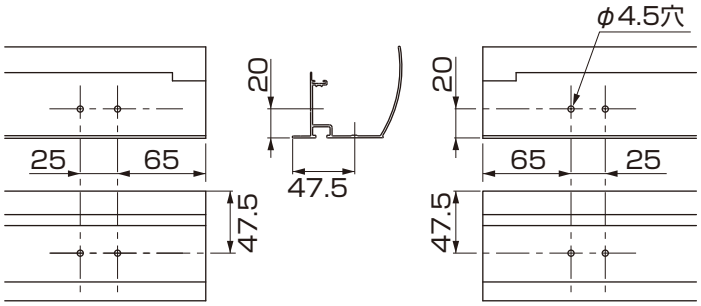


図2-1　前枠（樋あり）の加工

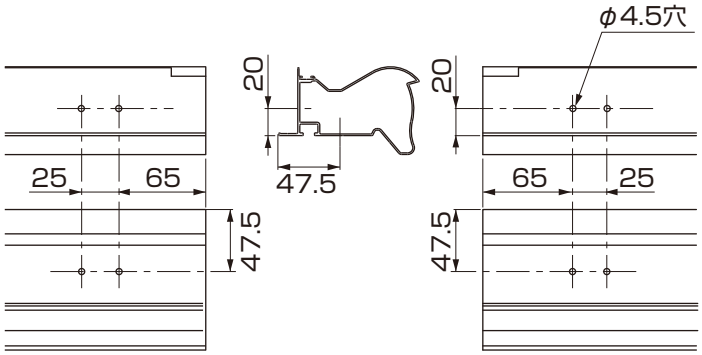


図2-2　前枠（樋なし）の加工

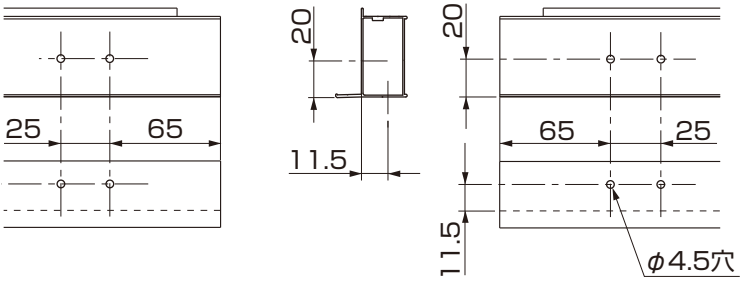


図2-3　母屋の加工

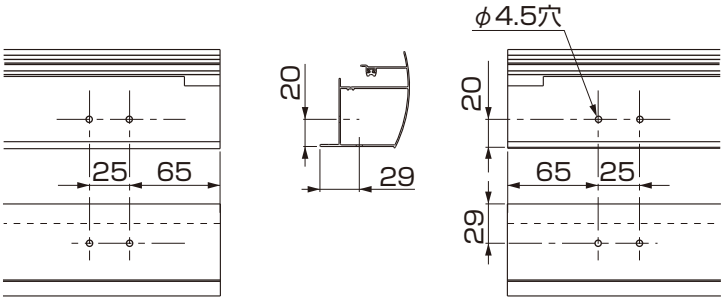


図2-4　後枠の加工

①後枠・前枠・母屋の連棟側を穴加工してください。（図2-1、図2-2、図2-3、図2-4参照）

ポイント

●母屋側面の穴加工はフィン側にしてください。

2-2 連棟部の連結

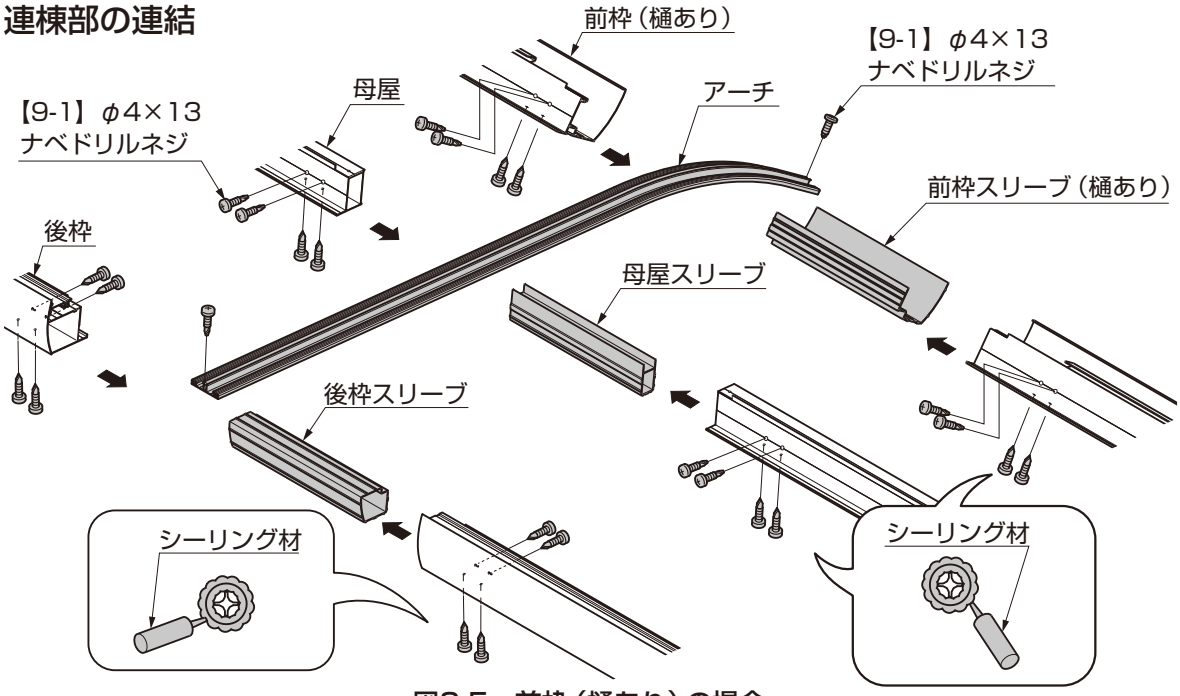


図2-5　前枠（樋あり）の場合

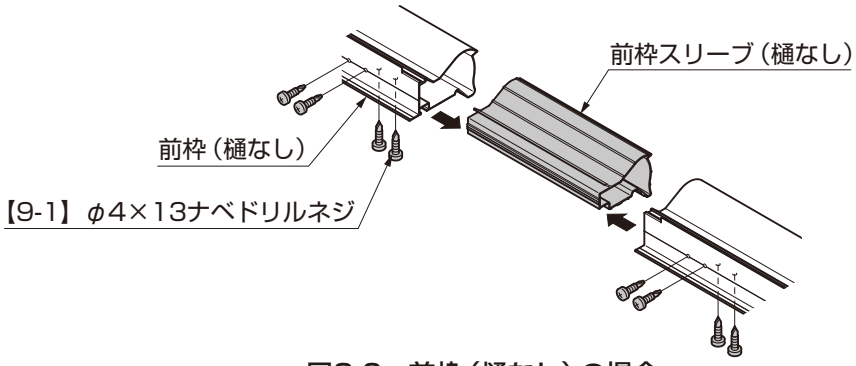


図2-6　前枠（樋なし）の場合

①後枠スリーブを取付ける【9-1】にシーリング材を充てんしてください。（図2-5参照）
②前枠・母屋・後枠にそれぞれ前枠スリーブ、母屋スリーブ、後枠スリーブを【9-1】で取付けて連結してください。（図2-5参照）
③全ての【9-1】の回りにシーリング材を充てんしてください。

ポイント

●連棟部分以外の組立ては、「3 基本の施工方法」を参照してください。

2-3 シーリング処理

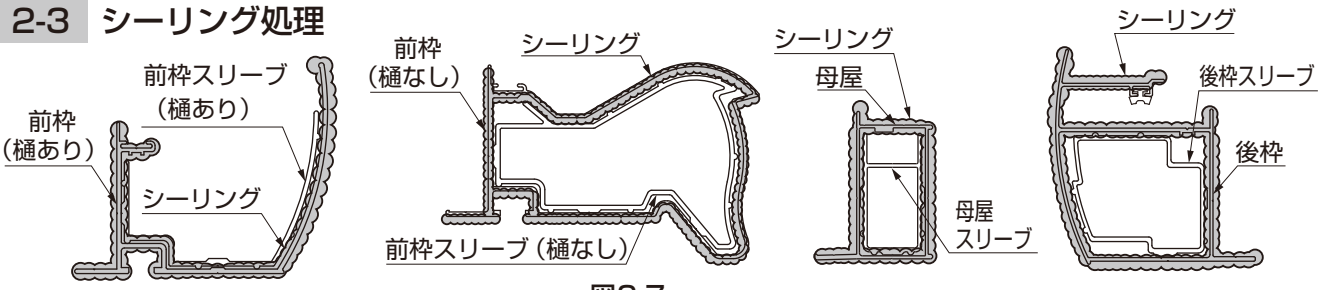


図2-7

①連棟部分にシーリング材を充てんしてください。（図2-7参照）